

「数学者 岡潔からインスパイアを受ける」

2026・10・7 重枝 一郎

「感情」と「情緒」という言葉がある。この違いを理解することは、心理学、教育学でもよく言われることである。この手の話では、私は、天才数学者といわれる岡潔先生（1901～1978）の話の影響を受けている。岡先生は「情緒」を人間の人格の深い部分を支える働きとして考えている。そして「情緒」は人間の価値判断や想像力を支える根源的な力と言っている。

その岡先生の話をしする。岡先生は、世界の数学者が長年手こずっていた「多変数複素関数論」の難問を約20年間の思索の末に、一人で解決した伝説的な数学者と言われる。実は、岡先生の晩年は、随筆などを通じて情操教育の重要性を訴えたことでも有名である。岡先生がなぜそうになっていったのかは、当時の時代背景にある。高度経済成長の日本、受験戦争の教育、知識詰め込みに価値を置く評価・・・。

この空気を危惧した岡先生は、「確かに学問的知識は大切であるが、最も大切なのは情緒である」と強く主張する。「情緒」という心の根源的な働きがなければ、知識も役に立たないと言う。

時は流れ、after AIの今、別の意味で、大切なのは知識の量ではないことが叫ばれる。時代は違うが、「知識」という共通項で、「情緒」の価値を意識する時代に完全に入っている。私は、岡先生の考えは、本校が大切にしていることを大切にすマインドにつながると思った。直感的に。

実は、岡氏も、現在の文科省も、「感情」と「情緒」の違いを理解することは、自己理解を深め、他者との円滑なコミュニケーションを図るために重要だという。私は、本校のマインドを育てる教育の根っこになる考えではないかと思った。

「感情」は外部からの影響を受けた内的な反応のことになる。例えば、突然の驚き、激しい怒り、深い悲しみなど、私たちの心に直接的・瞬間的に影響を与える。波もある。

一方「情緒」は、感情が時間をかけて深まったことをいう。感情の集合体という人もいる。岡氏は「情緒を育てる教育」のことを、「情緒は植物のように育つので、時間をかけなければならない。また、情緒は教え込むものではなく、自然に育つような環境を整えることで育つ。情緒を育てるのに重要な手段としては、自然・芸術教育・人とのあたたかな関わりであり、それが学ぶ力そのものの土台を育てる」と言っている。

私は、本校っぽい教育観だと思った。私の直感は当たっていると感じている（笑）。

つまり、「感情」は一時的で瞬間的な反応であるのに対して、「情緒」は感情が深く根付くことで、私たちの性格や行動に影響を与えるものになる。そこで思うのは、「情緒不安定」という言葉である。上のことから考えると、負の感情が、「情緒」として根付くこともあるということになる。私がよくいう「自分が発した言葉の影響を一番受けるのは自分」にもつながる。だから、プラスの言葉をできるだけ使っていく。

「情緒」は、テーマやメッセージを自分の内なる「情緒」に深く響かせ、時間をかけて付き合えば、深く根付いていく。こういう「情緒」を育むと、それが自己理解や他者理解につながる。本校の「大切なひとり」も「情緒」を育てる教育だと思う。

私は1学期の終業式で「情緒を育て、磨くには、毎日の礼拝の時間に静かに1つのことを考えたり、目の前のことに集中したり、自分が大切だと思うことを大切にしたりすることが必要になる」と話した。

今の日本の教育現場でも当然「情緒」は大切にされている。文科省も「情緒」を「豊かな人間性」や「思いやり」「美しいものに感動する心」などと結び付けて説明している。国語教育でも、「情緒力」を高めることが重視されている。学習指導要領にも、「より深い自己理解と人間関係の構築に役立つ」と明示されている。私は、「マインドを育てる教育」という言葉をよく使う。これは、人生や人間性の豊かさそのものを支える大切な「情緒」を育てることではないかと思う。

岡氏は、「知識」を食材、「情緒」を料理人の感性と例え、両方大切だと言っている。「情緒が知性の土台である」という考え方は、現代の教育学や心理学とも響き合う。そして本校の教育にも響き合うと思う。本校は、「情緒」を磨き育てる教育を、一貫して行ってきた。時代が本校に追い付いてきた。

J1 のラーニングルームの壁に「時間を感じよう」という言葉がある。この言葉は、以前、**校長研修だより 251** で書いた。私たちはおそらく「時間を感じよう」と言われたら、「早く」「前もって」「テキパキ」「集中」などのイメージで想像する。反対に、岡氏は「時間を思いきりかける」ことの大切さを言っている。当たり前だが、両方大切である。私は「時間を感じる」という言葉の中には、テキパキすることに圧をかけているようなところがあるから、あわせて、「じっくり時間をかけることも“時間を感じる”という言葉の中に含まれるんだよ」という話をするのも大切だと思った。このことは、2 学期の始業式で話した。